

SHOW HHEY シネマルーム

テイク・シェルター

2011年・アメリカ映画
配給/プレシディオ・120分

2012(平成24)年3月22日鑑賞 東映試写室

Data

監督・脚本: ジェフ・ニコルズ
出演: マイケル・シャノン/ジェシカ・チャステイン/トーマス・アシュワート/シア・ウィグハム/ケイティ・ミクソン/キャシー・ペイカー/レイ・マッキントン/リサ・ゲイ・ハミルトン/ロバート・ロングストリート

👁 👁 みどころ

かつての日蓮のように「末法思想」を説くのは、いたずらに不安を煽り、人心を惑わすだけ？しかし、天変地異の不安からシェルターをつくるのはオレの勝手！災害は忘れた頃にやってくる。それは3・11東日本大震災を見ても明らかだが、本作の主人公はなぜ毎晩こんな悪夢を？

何とも不思議な世界観を描いた『メランコリア』(11年)と対比して本作を観れば、「決して明かすことのできない結末」についての理解もより深まるのでは・・・。

あの表情とあの天候、それだけで不安いっぱい・・・

映画冒頭、家の庭から不安げに空を見上げているカーティス(マイケル・シャノン)の姿が映し出される。カーティスは石油採掘の工事現場で働く労働者だが、この田舎町ではそのレベルの男でも大きな庭付き一戸建ての家に住めるらしい。さらに、邦題(=原題)どおりのシェルターがカーティスの庭には設置されているらしいからたいしたものだ。今カーティスの目に映るのは不気味に広がる雲。そして、ポタポタと落ちてきた雨を手の平で受けみると、それは色がついているうえ油のようなドロドロ状態だから気味が悪い。ひょっとして大気汚染が深化している中国の黄砂がアメリカまで飛来したの？もしそうなら、原因がはっきりしているだけまだマシ・・・？

カーティスを演ずるマイケル・シャノンは『レボリユーションナリー・ロード 燃え尽きるまで』(08年)(『シネマルーム22』58頁参照)や『ロシアン・ルーレット』(10年)などに出演しているが、これまで主役ではなく脇役としてその存在感を発揮してきた俳優。しかし、主役に抜擢された本作の冒頭に見せるこの不安な表情は、それだけで観客

の心をグッと引きつけているから立派なものだ。日本では昨年の3・11東日本大震災以降さかんに災害に対する備えの重要性が描かれているが、例によって議論は多いものの実践されているものはほとんどなし。しかし、カーティスのあの表情とあの天候を見ていると、それだけで不安いっぱい・・・。

これは悪夢？それとも大災害のお告げ？

かつて北条家が執権として日本国を支配していた鎌倉時代、日蓮宗の教祖となった日蓮は近い将来日本を大きな国難が襲うと予言した。このことが社会の不安を煽ったとして佐渡への流罪になったが、1274年と1281年には現実にも蒙古の襲来を受けた（文永の役と弘安の役）から日蓮の予言は正しかった・・・？また、アルフレッド・ヒッチコック監督の名作『鳥』（63年）はすごく恐い映画だったが、本作でカーティスの目に映る鳥の集団移動を見ていると、大きな天変地異の襲来は近い？人間が夢を見るのは心の奥底でそのことを考えているため。したがって、カーティスが最近大災害の悪夢にうなされるのは、カーティスが日常的にそんな心配をしているためであることは明らかだ。しかし、悪夢を見た後、腕がホントに痛かったり、寝汗の次には寝小便をしたり、挙げ句の果ては身体が痙攣して動かなくなるようになれば、そりゃ重症だ。

いつもベッドの隣で眠っている妻のサマンサ（ジェシカ・チャステイン）は最近夫の様子がおかしいことを心配していたが、カーティスが何も話してくれなければ不安の共有は無理。1人娘のハンナ（トーヴァ・スチュワート）は生まれつき耳が不自由なため、手話の学習やそのための学校教育などに何かと忙しいサマンサは、カーティスの「何でもない」との言葉を信じて、あなた任せにしていたが・・・。最近カーティスが毎晩のように見るのは悪夢？それとも、大災害のお告げ？



『ディク・シェルター』3月24日（土）、新宿バルト9他全国ロードショー

(C) 2011 GROVE HILL PRODUCTIONS LLC All Rights Reserved.

カーティスの不安はなぜ？これは杞憂？それとも・・・

本作の脚本を書き監督したジェフ・ニコルズは1978年生まれだから、まだ34歳の若者。プレスシートによると、ジェフがこの脚本を書き始めた2008年の夏は、新婚1年目で公私共に順調だったにもかかわらず、世界全体が困難な時代に向かっているという考えに絶えず悩まされていたらしい。私は愛媛大学で『まちづくりの法と政策』を講義し始めた1999年頃から、「失われた10年」を経験したにもかかわらず、小泉政権の5年半以外は何ら有効な手を打てなかったうえ、2009年8月30日の「政権交代」後もますます混迷度を深めている我がニッポン国に大きな不安を持ち続けてきた。近い将来、ニッポン国は中華人民共和国日本自治州になったうえ、多くの日本人は下等な職業にしか就けず、パンと水だけの食事をしながらそれでも小さな幸せの中で生きているのでは？他方、北朝鮮からミサイルが飛んでくる不安もあるが、そうなればきっと日本人も国の意識に目覚めるだろうから、むしろその方がこの国を立ち直らせるには好都合・・・？

そんな私の不安は、今カーティスが持ち続けている不安に比べればチョロイものかもしれない。なぜなら、カーティスの不安は超自然的な嵐によって自分たちの町や国が崩壊してしまうのではないかというものだから。そこで庭にあった古いシェルターに注目したカーティスは今、その修理に大わらわ。お金もかかるし時間もかかるが、そりゃ仕方なし。そのためには、多少仕事に悪影響が出てもそれも仕方なし・・・？そんなカーティスの行動が周りの人々から変人扱いされたのは当然だし、会社での「サボリ」によって同僚のデュワート（シア・ウィグハム）との間が悪化したうえ、会社もクビにされてしまったから大変。子供のために使うべきお金をまで手をつけてカーティスは一体ナニをやってるの？カーティスが持つそんな不安は果たして杞憂？それとも・・・？

そう思っていると地震、雷、火事、親父は突然やってくるもの。古いシェルターの修理と整備はほぼ完了。ここに逃げ込めば、町民全員が死亡しても我が家族だけは大丈夫。カーティスの言うとおり酸素マスクを顔につけたサマンサも、この時ばかりはカーティスの備えの良さに感謝しながらハンナを連れてシェルターに逃げ込んだが・・・。

カンヌで大絶賛！『メランコリア』と対比すれば？

大災害の不安をテーマとした本作は、2011年5月の第64回カンヌ国際映画祭で批評家週間グランプリ、国際批評家連盟賞など3つの賞を受賞した。他方、地球に近づく惑星メランコリアの恐怖をテーマとした『メランコリア』（11年）は、ラース・フォン・トリアー監督が「私はナチに共感する」と発言して映画祭から追放されたという事件の影響もあってか、コンペティション部門での作品賞などは受賞できなかったが、花嫁姿で印象的な演技を見せたキルスティン・ダンストが主演女優賞を受賞した。『メランコリア』では次第が大きくなってくる惑星をめぐって「決して明かしてはならない結末」が訪れたが、さて本作のラストは？

カーティスが変人扱いされながら、さらに会社の同僚を裏切ったり会社をクビにされながら手塩にかけて整備したシェルターは、あの嵐でいかに役に立ったの？東日本大震災

の被害が目焼きついている私の目には、あの程度のシェルターでは何の役にも立たないのではないか、という不安があるが、さて現実は何？『メランコリア』のラース・フォン・トリアー監督が持つ不安と本作のジェフ・ニコルズ監督が持つ不安は共通のものだろうか、その描き方と結末のあり方は大違い。したがって『メランコリア』との対比という視点を持っては、本作を鑑賞するについて一層興味深いのでは？

災害は忘れた頃にやってくる！

クリント・イーストウッド監督の『ヒア アフター』（10年）で観た映画冒頭の大津波のシーンは迫力満点だった（『シネマルーム26』123頁参照）が、それだけに3・11東日本大震災の被害を受けた日本では公開が延期（事実上見送り）されてしまったのは仕方なし？本作のラストに向けてのクライマックスは、ベッドがグラグラ揺れるほどの大嵐が来たため大急ぎでシェルターの中に家族3人が逃げ込むシークエンスだが、一夜（？）明けた後の世界は？もちろんこのシェルターには外界を見るためのカメラ装置などはないから、外の様子は全く分からない。しかし、少なくとも大嵐が吹き荒れている音はしないから、それなりに収まっているらしい。サマンサの薦めでしぶしぶガスマスクを外したカーティスが、シェルターの蓋を開けてみると・・・。

ここからは、さすがのカーティスも少しは不安が解消されたいらしい。その結果、それまでの不義理を埋め合わせするように家族連れでビーチ旅行に出かける計画まで復活してきたから、サマンサにとっては嬉しい限り。しかし、しかしだ。災害は忘れた頃にやってくる、というのが鉄則。あれほどカーティスの頭の中に重くのしかかっていた不安が消え去り、普通の良き夫、良き父になってしまったのはいいのだが・・・。

本作のラストにはビーチで楽しく過ごしているサマンサの目の前に、かつてカーティスが何度も見たようなこの世の末を告げるかのような雲の風景が広がり迫ってくるシーンが登場する。そして、ポツリポツリと降り始めた雨を、サマンサが手の平で受け取ってみると・・・。「結末は決して明かさないうで下さい」との要請は『メランコリア』と同じだからここには書けないが、何とも余韻のある本作の終わり方にも感心！やっばり、カンヌでの受賞はダテではないことを実感！

2012（平成24）年3月27日記

多発する「暴走事件」への危険運転致死傷罪の適用は？

1) 2012年4月29日に発生した超越高速道バス事故は運転手の居眠りによるものだから、いくら死傷者が多くても危険運転致死傷罪の適用はムリで、自動車運転過失致死傷罪での処罰はやむをえない。しかしA 4月12日に京都・祇園で発生し、横断歩道者等をなぎ倒した暴走事故は？また、B 4月23日に京都府亀岡市で集団登校の列に突っ込み児童ら10人を死傷させた18歳の少年による無免許暴走事故は？

2) 塩屋俊監督の『0(ゼロ)からの風』(07年)は、無免許、飲酒、暴走運転によって1人息子をひき殺しながら、加害者は業務上過失致死傷罪による軽い処罰しか受けないのなら、「私たちが法律をつくります」と宣言して署名運動を展開し、2001年12月に危険運転致死傷罪を新設させた鈴木共子さん(2011年4月21日に亡くなった元キャンディーズの田中好子が好演!)の姿を描いた問題提起作だった。

3) 署名運動の盛り上がりで世論の後押しによって、2001年に危険運転致死傷罪が刑法208条の2として新設され、法定刑は、傷害の場合15年以上の懲役、死亡の場合1年以上の有期懲役(最高20年、併合加重の場合は最高30年)とされた。しかし、その類型が酩酊運転 制御困難運転 未熟運転 妨害運転 信号無視運転と多いうえ、「正常な運転が困難な状態」「進行を制

御することが困難な高速度」「進行を制御する技能を有しない」等の条文をどう解釈するかが難しいため、その適用は苦渋を極めていた。

4) 2006年8月25日に発生した飲酒運転の車に追突されて博多湾に転落し車中の3児が死亡した「福岡海の中道大橋飲酒運転事故」では、一審の福岡地裁は業務上運転過失致死傷罪のみを認定し、懲役7年6月とした。これに対して二審の福岡高裁は危険運転致死傷罪を認定し、道路交通法違反と併合して懲役20年の判決を下した。また、最高裁は2011年10月31日、「アルコールの影響による前方不注視による危険を的確に把握して対処できない状態も危険運転にあたる」という判断を示して、上告を棄却した。

5) A事件は当初危険運転致死傷罪はもちろん殺人罪も視野に検討されたが、加害者の死亡もあって原因の特定が難しいようだ。B事件も当初危険運転致死傷罪が検討されたが、無免許でも長時間運転していれば技能が未熟とは言えないことが壁となっている。

6) B事件の遺族らは、無免許運転を構成要件に明記するよう刑法の改正を求める署名活動を行うことを決めたが、無免許と「正常な運転が困難な状態」とは明らかに異質の概念だから、さて鈴木さんの署名活動ほどの盛り上がりは？

2012(平成24)年5月24日記